

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度	平成17年度～		
総合計画	大項目	基本目標	03 地域文化と人が輝くまちづくり
	中項目	基本施策	03 歴史と文化の輝くまちづくり
	小項目	施策	01 文化芸術の振興
事務事業名	04	吉永美術館管理運営事業	
根拠法令・例規等			備前市立美術館設置条例
	担当課(室)	吉永地域公民館	
	職・氏名	主査 光友昭	
問合せ先	電話	84-3839	

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	郷土の歴史に興味のある方、美術品をギャラリーとして展示したい方
目的(何のために)	郷土に関する資料の収集・保存を行うと同時に、展示によって郷土の歴史や文化についての理解・認識を深め、郷土の財産として後世に伝える。また、貸ギャラリーとしての貸館業務を行う。
行政活動(どのような方法で)	常設展による郷土著名人等の作品展示及び企画展として民間団体と共催し市内学童の絵画を展示
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	郷土の歴史や文化についての理解・認識を深める。

事業の実績				
実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
入館者数	人	800	1,276	645
開催日数	日	12	157	131
直接事業費	千円	1,095	1,045	808
必要人員	人	0.10人	0.09人	0.07人
事業費	千円	1,760	1,571	1,375
国・県支出金	千円			
受益者負担金	千円	0	24	0
繰入金	千円			
その他( )	千円			
一般財源	千円	1,760	1,547	1,375
受益者負担比率	%		1.5%	

結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
結果指標①	説明 入館者数	800	1,276	645
	対前年比%	-	159.5%	50.5%
	活動コスト	1,760,000	1,571,000	1,445,000
	単位当たりコスト	2,200	1,231	2,240
結果指標②	説明 開催日数	123	157	131
	対前年比%	-	127.6%	83.4%
	活動コスト	1,760,000	1,571,000	1,445,000
	単位当たりコスト	14,309	10,006	11,031

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
年間入館者数	目標値(A)	800	1,000	900	900
	実績値(B)	800	1276	645	到達目標年度
	達成率(B/A)	100.00%	127.60%	71.67%	平成20年度
成果指標設定の考え方・式や説明					
年間入館者数実績を目標値と比較する。					

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>		C	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input checked="" type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input checked="" type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input checked="" type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input checked="" type="checkbox"/> 類似した事業がある	文化祭での利用者数が大半であり、美術館独自の利用者数は少ない。ただ、郷土歴史資料を適切に保存するための維持管理を市が責任をもって行うことが必要。		
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い			
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E> C 判定理由・課題認識 公民館職員で対応しているため、コスト的には削減されているが、事業内容の有効性が伴わない。		
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	有効性評価<A~E> D 判定理由・課題認識 貸館利用がなく利用者が減少した。		

平成21年度の状況							
目標値	結果指標量①	800	結果指標量②	150	成果指標量	800	
状況	拡充		現状継続	○	見直し		縮小
説明	全4回の所蔵展を企画。今後PRしていく。						

総合評価		評価区分<A~E>	妥当性
美術館としての機能は利用客数の現状を考慮すると閉鎖もやむを得ない状況である。だが、郷土歴史資料の適切な保管を行うところが他になく、市が責任をもって管理運営し郷土の財産として後世に伝えていく事が必要。		D	

平成22年度以降の方向性・内容							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	利用者数の増加を図りながら、引き続き現状維持する。						
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果			
有効性	貸館利用の増		平成22年度	利用者数の増			

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりのコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。